

を見極めて計五つの四球を選んだほか、盗塁や進塁打で、得点圏にランナーを進めたが、あと一本が出ず得点には結びつかなかった。

主将の東山大輝君(一)鳴尾東ビクタース。五月まであきらめずに、声を押しつけてナインを励ました」と話し、仲間の健闘をたたえた。



亡きコーチに ささげる健闘

鳴尾東ビクタース

○…息が詰まるような投手戦の末、両チーム無得点による抽選で敗れた鳴尾東ビクタース。五月下旬にチームのコーチが事故で亡くなり、チーム全員が左肩に喪章を付けて試合に臨んだ。

七回を2安打

無失点に抑えた投手の天野凌介君(一)鳴尾東小6年。は「コートチにいい報告ができず残念だけど、内容では負けていなかった」と胸を張って話した。

円陣を組み気合を入れる鳴尾東ナイン

点の取り合い 抽選で涙のむ

金少クラブ

○…三回までに4点を奪われたが、猛攻をかけた反撃した金少クラブ。五回に1点を返し、六回には一死からの3連打で、同点に追いついた。試合では勝敗が決まらず、抽選で敗退が決まった。

六回に三塁打を放ち、

打点を上げた梶原大嵩君(一)難波小6年。は「ヒットは練習の成果。早めに点を取っておけばよかった」と悔しそうに話した。

猛追も及ばず 終盤力尽きる

猪名川エンジェルス

○…五回までは両チームとも無得点だったが、

六回に2点を先制された猪名川エンジェルス。粘りの試合運びでチャンスを広げ、2点を奪い返し、同点に追いついたが、1点を追加され力尽きた。最終回、代打で出場して三塁打を放った豊岡佑之介君(一)園和北小5年。は「打つ自信はあった。得点したかった」と振り返った。